

△産業宣教 危機に遭った産業人(使 11:19-30)	△レムナント伝道学 レムナントのアンテナ (使 19:8-10)	△核心/Remnant Day 4 月学院福音化	△散らされた弟子たち 三つの見張り台と見張り人 (I ペテ 2:9)
□序論 1. 危機選択 1) 危機の中に神様の大きな計画がある。 2) 大きな答えを置いて患難を許されたのだ。 3) 未来を見たので揺れる理由がない。 2. 日頃に力があつたので危機を選択 1) 1・3・8 (24) 初代教会産業人はキリスト、神の国、ただ聖霊 24 2) 1・3・8 (25) キリスト、神の国、ただ聖霊を答えを受けたこと 3) 1・3・8 (永遠) 1・3・8 が体質になったのが永遠 △レムナントは各国の言語を勉強して外国人に 1・3・8 を刻印させて送り出さない。 3. 産業の力 1) 使 2:43-45 恵みを受けて物質が一杯になってあふれた。 2) 使 4:32-37 全財産を神様の前にささげた(バルナバ) 3) ロマ 16:1-27 ロマ 16 章の人々の産業が世界福音化する力があつた。 □本論_答えの旅路 1. 絶望の時刻表=神様の時刻表 1) 異端の濡れ衣 2) 法で定めた 3) 監獄に投獄、死刑 △初代教会がローマまで変化させた。重職者が恵みを受けてこそ教会、産業、家が生かされる。 2. 患難=神様の道しるべ 1) 使 11:1-18 なぜ患難が起きたのか。エルサレム教会で異邦人の家で食事したことを律法的に問い詰めた。この程度の水準を持てはできない。 2) 使徒投獄 3) 使 11:19 産業人がアンテオケ教会を建てた。これが世界生かす道しるべになった。 3. 重職者産業=神様の旅路 1) 7 大旅路 三位一体の神様がみなさんの旅路の中に、神様が絶対で、どんな中でも生き残ることができる 10 の奥義で、どんな理論もみなさんを揺さぶることはできない。みことばの 10 の土台、確実だ。そして、神様がくださった 5 つの確信がある。そうすれば流れを変えることができる。9 つの流れ。そうすれば、一生に答えが来る。62 の生活。最後がキャンプだ。礼拝がキャンプで、御座だ。 2) みなさんが動く所が教会の始まりだ。 3) パウロ、異邦人 パウロが合流して異邦人の門が開いた △土曜核心を一単語で整理して、明日に礼拝をささげなさい。なぜやぐらと言うのか。光を伝達できるシステムを作ろうとするのだ。すると教会が生かされる。 □結論 信仰が予算で神様の祝福が決算だ。それゆえ、初代教会がユダヤ人の危機の中から出てきて世界福音化という信仰を持ったのだ。	□序論_傷 (RT 7 人) 1. システム(器)準備 1) サミット夢を見る刻印を始めるべき、これは永遠に続く。 2) 根をおろしただけ実が。1・3・8 によってだけいやし 3) 体質になれば運命を変えるようになる。 2. やぐらを建てること 1) 1・3・8、3・9・3 で福音の祝福を味えばプラットフォームが作られる 2) 光を照らす見張り台となる。 3) 他の人に教えるアンテナが作られる。 3. 見張り人 1) イザ 62:6-12 万民を生かす 2) エゼ 3:18-20 死んでいく者を生かす。 3) I ペテ 2:9 この光を放つ □本論_見張り人運動 1. 使 17:1 なぜ会堂なのか 1) 三つの安息日-どこへ行っても時刻表を見るべき 2) キリストの当為性を説明 3) 広場の人々が経済システムのために言いがかりをつけたこと 2. 使 18:4 ブリスカ夫婦に会ってなぜ会堂なのか 1) 出会い 2) 同じ産業が疎通 3) 安息日祈り、礼拝が何か教え 3. 使 19:8 ローマに行く直前になぜ会堂なのか 1) 3 か月-2 年-時刻表を見たこと 2) そこで神の国を宣傳伝え 3) 3 か月の間会堂、2 年間講堂で □結論 1. 親がいなくてもかまわない力を育てるべき 2. 世の中に出て行って勝つことができる力を育てるべき 3. やぐらでは光を照らすので、私たちはいやすべき	□序論 3 団体(瞑想)、ムスリムの祈り、巡礼者の道を行った人々の祈り、初期キリスト教で祈りと呼吸をどのようにしたのか確認しなければならない。 未知の世界を見ることができ祈りの力を見つけないといけない。 ローマ(当時強国)、スペイン(古くからの強国) -パウロが見た二つ 強大国がサタン滅亡文化を作り出して、間違った福音を持っているユダヤ人がそこに行っている。そちらに送ったパウロの手紙がローマ人への手紙 → RT 7(大人たち、現場の王が見ることができなかったことを見た。) サミット祈り-レムナントはだまされずにサミットへ行く祈りを学びなさい。それで、大人たちと現場にいる専門家が見ることができないことを見るのだ。 □本論 1) ロマ 3:10(創 3 章の事件以降、すべての人はサタンの奴隷になった)-義人は一人もない。 ロマ 3:23(原罪)-神様を離れた罪。人間は神様に会わなければならない。 ロマ 6:23(罪からの報酬は死)(救われればいのちを得る) それゆえ、与えられた答え-創 3:15 2) ロマ 1:16- 17) キリストを信じることによって救われる。 ハバ 2:4) ただ義人は信仰によって生きる。 ルターがこのみことばを引用 △レムナントは祈りから始めれば、あらかじめ答えが来る。そちらへ行けば良い 3) ロマ 5:8 人間は救われることができる力がない。私たちは滅亡状態にいるのでキリストが十字架に死なれ、神様が私たちに対する自らの愛を明らかにされた ロマ 8:2 解放-いのちの御霊の原理が罪と死の原理からあなたがたを解放させた。 △この契約を握って刻印させなさい。 4) ロマ 10:9-10 信仰で義と認められ、告白して救われる。信じて刻印されるとき、働きが起こる。 ロマ 10:13-15 主の御名を呼ぶ者は救われる。 5) ロマ 12:1-2 生きた祈り、生きた礼拝が重要だ。レムナントは 24 祈りでできればサミットとして世界を征服する(24)。そのときから、神の国という答えが来て(25) 永遠に残るいのちと弟子運動が起こる(永遠)。 ロマ 16:1-23 神様と裏面契約が生じる。 ロマ 16:25-27 神様が世々にわたって長い間「隠しておかれたこと」、とこしえにあることを与えてくださる。 AD57 パウロが手紙送った年、AD70 イスラエル滅亡、AD313 キリスト教国教宣言 □結論_リズム 祈りで平安になったというのは霊的リズムが見つけれられたのだ。レムナントはサミット祈りを学んで 3 団体を生かす証人として立ちなさい。	□序論 1. 目に見えないやぐらを作るべき 2. やぐらの内容-救い、いやし、サミット。それゆえ、福音と祈りひとつを正しく教えればよい。 3. 見張り人の特徴は何か - 24・25・00 □本論 1. 今から伝道者を育てるやぐら作るべき(光を所有する者として) 1) 使 1:1 2) 使 1:3 3) 使 1:8 違うものは何も意味がない。カルバリの丘、オリブ山、マルコの屋上の中で 2. 237 たてるやぐらを建てるべき(光を持っている者が光を伝達すること) 1) すべての種族たてるやぐら-弟子を立てること 2) 万民にどうやって行くのか-いやし(悪霊を追い出すこと)によって 3) どのように地の果てまで-ただ(聖霊)によって 3. 5000 やぐら建てるのは(光のいやし) 1) 使 13:5-12 2) 使 16:16-18 3) 使 19:8-20 パウロの三つ:ところどころやぐらを建てて弟子をたてること。いやしをするやぐら。全世界にやぐらを建てる会堂、レムナントを探した。 □結論 1. 制限的集中 2. 選択的集中 3. ワンネス集中 △明日、礼拝する中にみなさんが集中祈りをしながらゆっくり集中して呼吸するとき、からだが続けて生かされる。それゆえ、みなさんは世界を生かす目に見えないやぐらを建てなさい。

2023 第 1, 2, 3 RUTC 答え 25 (13) (社)世界福音化伝道協会 www.wedarak.net		
2023 年 3 月 26 日 週間祈りカード		
△区域メッセージ (第 13 週) 救いの確信と 25 の答え (I ヨハ 5:11-13)	△聖日 1 部礼拝 この地にいのちの商品はない(ロマ 3:9-20)	△聖日 2 部礼拝 神様の義は運命の根本を変える(ロマ 3:21-31)
神の国、いやし、サミット←答え △礼拝するとき、神の国が成り立って、いやしが起こる。また、礼拝のとき、恵みを正しく握れば、サミットになって、ものすごい答えを受けるのだ。もし間違っても、祈るならば神様が修正してください。 キリスト←ないこと、場所←考え、心、たましい、背景→脳←3・9・3 △キリストが私にないから、救いと聖霊の場所がないのだ。私たちは考え、心、たましいがあるが、このたましいは永遠なことと関係していて、このすべての重要な部分は全部脳にある。この部分に3・9・3 が臨めば、力になって変わる。 □序論 1. 確信 X -このような部分を分らないから確信がない。 2. 聖霊の導き X-大変なので聖霊の導きが受けられない。 3. 祈りの答え X-祈りの答えもなくして祈りの力も出ない。 4. 救いの内容 X -ずっと聞いても救いの内容も心にあたらない。 5. 区分 X -霊的に弱い状態になると区分ができない。 □本論 区域、地教会、金土日 1. 創 1:27 本来の神のかたち、救いの祝福を回復させられた。 キリスト→道 神様は キリストを通して私たちに訪ねてこられた。 エペ 2:1 罪と罪過で死んでいた私たちをキリストで生かされた。 エペ 2:2 空中の権威を持った者に付いて回る。 エペ 2:6「キリストとともに天に座らせられた」過去、現在、未来の問題をみな解決した。 2. 創 2:7 確信-感激 この祝福がくればキリストで確信が与えられ、感激する。 I ペテ 5:7-8 確信がないときサタンが攻撃する。「あなたがたの思い煩いを主にゆだねなさい」祈りは私たちの心配を主に任せることだ。 3. 創 2:18 私たちの生活の中でエデンの園の祝福を味わえないので、この中心によって説明すべき。 証拠 証拠が始まる。 △三位一体の神様、御座、3 時代-三位一体の神様の御座の祝福が私に臨めば、それを指して「神の国」と言う。そして、時空超越、237 が見え始めて空前絶後の答えが来る。3 時代を変える証拠も来る。 □結論 祈り、リズム この時から祈りで安らかに始まる。祈りがリズムになる。 1. 定刻-大変ならば少しでも時間を定めてやればできる 2. 常時-祈りが自然に成り立つことが常時祈りだ。そうすれば健康も来て、多くのことが来る。 3. 集中-重要なことが生じれば、それを持って集中祈りをするのだ。	宣教大会準備-私と宣教は何の関係があって、私はどんな使命持って祈るのかを見つけなければならない。宣教大会前に答えを受けて宣教大会をしながら答えを受けなければならない。伝道運動する前に、答えから受けることが、やぐらを建てることだ。 □序論_神様がパウロを用いられた理由-三つのことを知っていたパウロ 1. ローマ-戦争の主役である強大国ローマに福音を伝えることだけが暗やみ防ぐ道 2. ユダヤ人-福音を受けたユダヤ人が福音を伝えなくて、他のことをしているという事実 1)ヤハウェはイスラエルの神 2)我が国を守るメシヤ思想 3)選民思想 4)福音がない。 3. ローマ教会の信徒-キリストでない律法を強調して福音を伝えないローマ教会の信徒 1)福音を適当に味わって律法を続けて話すのになぜ属国になったのか(8 節) 2)義人は一人もいない。神様が救われなければ私たちはみな滅びる人だ(9-20 節) 3)割礼した者であれ、無割礼の者であれ、信仰によって救われる(27-30 節) △サタンがキリストを聞けなくさせるのだ。宣教師とみなさんの未来のために本当に祈らなければならない。 □本論 私たちが準備する三つのこと 1. 初代教会で受けた個人やぐらを作りなさい。 御座の祝福が来るしかない。 1)カルバリの丘の契約セッティング 2)オリーブ山の契約セッティング 3)マルコの屋上の間の契約セッティング 創 1:27私のいのちの中に神のかたちが回復するやぐらを建てたこと 2. 家族とチームのやぐらを作りなさい。 時空超越の働きが起こり始めた 1)バルナバに会ってマルコの屋上の間を悟ったパウロ 2)プリスキラ夫婦とチームを組んでマルコの屋上の間の力、働き、未来を聞いたパウロ 3)ロマ 16 章の奥義を持った者の集い(ロマ 16:25-27) -世々にわたって長い間隠されていたことを、今、与えられた 創 2:7神様が私の中にいのちの息を吹き込まれる答えを味わうようになる。 3. ローマを生かす教会のやぐらを作りなさい。 237 の門が開かれる。 1)使 2:10 その場にいなかったが、その契約を最高に味わったパウロ、その場にいたローマから来た旅人 2)人生の決定的な瞬間にローマの人であるプリスキラ夫婦に会ったパウロ 3)ロマ 16:3-4 ローマ福音化のためにパウロにいのちをかけたプリスキラ夫婦 □結論 3・9・3 祈り(三位一体の神様と御座の力と時代変える力) 1. 3・9・3 の力が私に臨むように 2. 3・9・3 の力が多くの人と宣教地に伝えられるように ※みなさん一人の祈りがみなさん教会と家にやぐらとなる。	ロマ 3:23 なぜ難しいのか。すべての人が罪を犯した。神様を離れている。ロマ 3:25 それゆえ、神様が義を成し遂げられた。それゆえ、神様がくださったのは「根本運命を変えること」だ。 伝道するために私の祈りのやぐらから建てなさい。 答え、祝福を先に受けて、未来を先に見るのだ。 △本当に祈りのやぐらが建てられていけば開かれる。みなさんの地域が生かされる。 □序論_人を生かすことができる答えと伝道のやぐらが建つようになる(理由) 1. 手紙 1) 57 年-パウロが手紙を送った時 2) 70 年-イスラエル滅亡 3) 313 年-ローマキリスト教国教化 △神様がパウロの心の中に、ローマを生かさなければならないという飢え渴きを与えられた。 2. RT 7 が祈りのやぐらから建てたこと 1)創 39:1-6 ヨセフ 2)詩 78:70-72 ダビデ 3)ダニ 1:8-9 ダニエル 3. 世の中を変化させるには方法がない。 1)神様が義を送られたのだ(21 節)。 2)信じるすべての者に差別がない義 3)すべての人が救われることができない(23 節) 4)恵み-それゆえ、キリストの贖いゆえに価なしに義に認められると言われた(24 節) 5)神様がくださったことなので、誇ることはできない(27 節) □本論_光を持ったので見張り人として 1. 教会の見張り人 1)私の運命を完全に換えられる。 2)使 9:1-15 異邦人、イスラエル、王の前に立てるわたしの選びの器だという契約を握ったとき、運命が変わった。/使 11:25-26 バルナバとの出会い/使徒 13:1-4 初めて宣教師として派遣/使 16:6-10 マケドニアとローマを生かしに行くようになる。/使 19:1-7 3)見張り人のグループを作りなさい。 2. 地域の見張り人 1)現地の運命が変わる。 2)使 16:15 ルデヤ、17:6 ヤソン、18:4 プリスキラ夫婦、19:9 弟子 3)所々にみことば運動をする地教会が起こった。 3. 世界の見張り人 1)TCK の運命をひっくり返す。 2)使 19:21、23:11、27:24 ローマ、カイザル 3) 237-5000 種族が見える。 △教会に来ていた TCK、多民族の中に弟子を見つけて見張り人として立てるのだ。神様がたてられた弟子は「ただイエス」するようになっている。それでこそ暗やみを防ぐ。 □結論_光を照らさなければならない所-3 Field 1. わざわい地帯-見張り人を立てるやぐらチームを構成してみなさい。 2. 死角地帯-会堂に照らすのだ。 3. 黄金漁場-ロマ 16 章の人々がいる所-教会で金土日時代を開きなさい。 △やぐら、見張り人、光、三つの単語をのがしてはならない。